「夢」を信じて

　　　　　　　　　　　　高野町立高野山中学校　三年　中田　龍之介

　「人に与えられた時間は限られている。だから、誰か他人の人生を生きて、その時間を無駄にしてはならない。一番重要なのは、自分の心と直感にしたがう勇気を持つことだ。」

これは、スティーブ・ジョブズのスピーチの一部だ。「夢」を持つとはどういうことか。そのことを考えていた時、僕は、この言葉を聞いて不思議と心に刺さった。次に、納得できた上で、自分のことについて考えてみた。よく考えてみると、僕は、勇気がない。周りからは、「優柔不断」と言われることが多い。確かに言われてみればそうだ。何を選ぶにしても、ぐずぐずして決断が鈍い。この言葉に出会ったことをきっかけに、「夢」の実現に向けて、自分はどうすればよいのかを考えてみた。

「失敗は成功のもと」という言葉がある。僕は、この失敗は、誤った失敗ではなく、正しい失敗をした時に限ると思う。誤った失敗とは、失敗しても反省せず、改善することなく続けていくことだ。成功したとしても、それが本当の成功だといえるのだろうか。それに対して、正しい失敗は、反省した上で、欠点を改善していくことだ。そうすれば、やがて成功するに違いない。

誰しもが、絶対に失敗の道を通らずに成功できるという完璧な人間はいない。だから、失敗を恐れず、経験を重ねることでその努力が、成功へと導いてくれるのではないだろうか。その成功が、「夢」を実現させる一つの「カギ」となる。

僕が、あるバドミントンの試合に参加した時のことである。試合前、「このチームなら、余裕で勝てる。」と思っていた。しかし、最初から油断して、相手のサーブを取り逃してしまった。「たまたまや。たまたま。」と気にすることなく続けていた。すると、またもや取り逃してしまった。これが、誤った失敗である。その後、自分の心の中で、「次は最後の最後まで、絶対に油断しない。」と誓った。そして、三回目。すると、サーブ権をとることができ、試合は進んだ。失敗が少なくなって、むしろ連続で点をとることができるようになり、勝負強くなった。その結果、試合に勝つことができた。同時に、自分自身にも勝つことができたのだと思う。つまり、成功したのだ。勝ちたいという「夢」があったからこそ、成功できたのである。いつも自分は、失敗したら自信がなくなり、次に引きずってしまうことが多い。しかし、その失敗は意味のないことではなかった。それが、勝利の手がかりになったということだ。

この体験で、「油断大敵」という言葉についても学んだ。少しの油断でも、遠ざかってしまう「夢」。その油断を大敵とするのが、「自分自身」なのだ。

僕が、これまでに経験した一つ一つの「夢」は、決して簡単に実現できるものではなかった。失敗を重ねて、時には悲しかったり、悔しかったり、

また、時には、嬉しさを感じたりした。その体験をしてきたからこそ、今の自分がいる。

　この現代社会、一人ひとりが異なった夢に向かって日々頑張っていることだろう。僕は、自分の心に素直に耳を傾けていきたい。ただ、頭の中で、「夢」を見ているだけでなく、「夢」を信じて一歩一歩、今できることを積み重ね、「夢」を実現し、今後の社会を担えるような人間になりたい。

　「自分に勝つことができたのならもうそれは立派な夢ではないか。夢は簡単にあきらめてはならない。」という名言が、この先ずっと、僕の背中を押し続けてくれるだろう。